

## 安全データシート

### 1. 化学物質等及び会社情報

製品の名称 : コマキュア  
供給者の会社名称 : 信越産業株式会社  
住所 : 埼玉県さいたま市緑区東大門1-5-4  
担当部門 : 技術サービス課  
電話番号 (緊急連絡) : 048-812-1160  
FAX番号 : 048-878-2309  
推奨用途 : コンクリート用表面保護養生剤等  
使用上の制限 : 推奨用途に明記された使用に限る  
整理番号 : E-0036G  
作成日 : 2024年2月22日

---

### 2. 危険有害情報の要約

#### GHS分類

##### 物理化学的性質

引火性液体 : 区分に該当しない

##### 健康に対する有害性

急性毒性 (経口) : 分類できない

急性毒性 (経皮) : 分類できない

急性毒性 (吸入: 蒸気) : 分類できない

急性毒性 (吸入: 粉じん及びミスト) : 分類できない

皮膚腐食性/刺激性 : 分類できない

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 分類できない

呼吸器感作性 : 分類できない

皮膚感作性 : 分類できない

生殖細胞変異原性 : 分類できない

発がん性 : 分類できない

生殖毒性 : 分類できない

特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 分類できない

特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : 分類できない

誤えん有害性 : 分類できない

##### 環境に対する有害性

水生環境有害性 短期 (急性) : 分類できない

水生環境有害性 長期 (慢性) : 分類できない

オゾン層への有害性	: 分類できない
ラベル要素	
絵表示又はシンボル	: なし
注意喚起語	: なし
危険有害性情報	: GHS 分類基準に該当しない
注意書き	: GHS 分類基準に該当しない  本製品は GHS 分類に該当する有害性はないが、化学品材料一般に対する取扱注意や保管方法が必要である。

#### GHS 分類に該当しない注意書き

##### 【安全対策】

- ・ 使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・ すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
- ・ 本来の目的以外の用途には使用しないこと。
- ・ この製品を使用する時に飲食または喫煙をしないこと。
- ・ ミスト/スプレーを吸入しないこと。
- ・ 必要に応じて個人用保護具を使用すること。
- ・ 取扱い後手をよく洗うこと。

##### 【応急措置】

- ・ 誤飲した場合、水でよく口の中を洗う。可能であれば吐き出させる。
- ・ 必要に応じて医師の診察/手当てを受ける。

##### 【保管】

- ・ 直射日光の当たらない場所に保管する。
- ・ 凍結を避けるため密閉容器で 5~40°C の室内に保管する。

##### 【廃棄】

- ・ 内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託すること。

---

### 3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別	: 混合物
化学名または一般名	: 変性アクリル酸エステル合成樹脂エマルション
化学式または構造式	: 混合物のため特定できない
官報公示整理番号	: 企業秘密のため非公表
CAS No.	: 企業秘密のため非公表
消防法	: 非該当
労働安全衛生法	: 表示対象物質、通知対象物質      非該当
化学物質排出把握管理促進法	: 非該当
毒物及び劇物取締法	: 非該当

#### 4. 応急措置

吸入した場合	: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
皮膚（または髪）に付着した場合	: 汚染された衣類を脱ぎ、皮膚を多量の水と石鹼で洗う。 : 皮膚刺激が生じた場合、医師の診察/手当を受ける。
眼に入った場合	: 清浄な水で数分間注意深く洗う。次にコンタクトレンズを着用して いて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。 : 清浄な水で数分間眼を洗浄した後、直ちに眼科医の手当を受ける。 洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみ まで水がよく行きわたるように洗浄する。 : 眼の刺激が続く場合は、医師の診察/手当を受ける。
飲み込んだ場合	: 水で口の中を洗浄し、コップ 1,2 杯の水または牛乳を饮ませる。可 能であれば吐き出させる。 : 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
急性症状及び遅発性症状の最も 重要な徵候	: 現在のところ有用な情報なし。
応急措置をする者の保護	: 汚染された衣類や保護具を取り除く。
医師に対する特別注意事項	: 現在のところ有用な情報なし。

#### 5. 火災時の措置

適切な消火剤	・水噴霧、乾燥粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素
使ってはならない消火剤	・強い水流は使用しない
特有の危険有害性	・水を多量に含むため、この物自体は燃えないが、水が蒸発した後の乾燥物は 可燃性である。
特有の消火方法	・周囲の設備等に散水して冷却する。 ・火災発生場所の周囲に関係者以外の立入りを禁止する。
消火活動を行う者の特別 な保護具及び予防措置	・消火用器材を準備する。作業の際には消火用保護具を着用する。 ・消火作業の際は、風上から行い必ず保護具を着用し、皮膚への接触が想定さ れる場合は、不浸透性の保護具及び手袋を着用する。

#### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	: 着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。 : 室内で漏出した場合は窓・ドアを開け十分に換気を行う。 : 作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、ガス 等を吸入しないようにする。 : こぼれた場所はすべりやすいため注意する。 : 風上から作業し、風下の人を退避させる。 : 多量の場合、人を安全に退避させる。
---------------------------	---

環境に対する注意事項	: 流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
	: 漏出物を直接に河川や下水に流してはいけない。
封じ込め及び浄化の方法 及び機材	: 少量の場合は、土、砂、おがくず、ウエス等に吸収させて、密閉できる空容器に回収する。
	: 多量の場合は、盛土で囲って流出を止めた後、液面を泡で覆い容器等に回収する。
二次災害の防止策	: 漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。
	: 付近の着火源となる物を速やかに除くとともに消化剤を準備する。
	: 下水道・河川等に流出し、二次災害・環境汚染を起こさないように注意する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

取扱者のはく露防止	<ul style="list-style-type: none"><li>室内で取り扱いを行う場合は、十分な換気を行う。</li><li>口で吸い上げるようなこと（サイホン）はしない。</li><li>屋外での取扱いは、できるだけ風上から作業する。</li><li>眼、皮膚、衣類に付けないこと。</li><li>汚染された作業衣は作業場から出さないこと。</li></ul>
火災・爆発の防止	<ul style="list-style-type: none"><li>水を多量に含むため、この物自体は燃えないが、水が蒸発した後の乾燥物は可燃性である。</li></ul>
局所排気・全体換気	<ul style="list-style-type: none"><li>適切な排気換気装置を使用する。</li></ul>
その他注意	<ul style="list-style-type: none"><li>容器を転倒や落下させたり、衝撃を加えたり、引きずる等の粗暴な取扱はしない。</li></ul>
安全取扱注意事項	<ul style="list-style-type: none"><li>皮膚に触れたり、眼に入る可能性のある場合には、適切な保護具を着用する。</li></ul>
接触回避	<ul style="list-style-type: none"><li>皮膚、粘膜または着衣に触れたり、眼に入らぬよう保護具を着用すること。</li></ul>
衛生対策	<ul style="list-style-type: none"><li>保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。</li><li>指定された場所以外では、飲食、喫煙を行ってはならない。</li><li>取扱い後はよく手を洗うこと。</li></ul>

### 保管

#### 安全な保管条件

安全な容器包装材料	<ul style="list-style-type: none"><li>直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管すること。</li><li>容器を密閉し、保管場所に施錠すること。</li><li>凍結を避けるため密閉容器で5~40°Cの室内に保管する。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>データなし</li></ul>

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	: 設定されていない
許容濃度	: 設定されていない
設備対策	: 法で定められたものはない。 通常は必要ないが、必要に応じて発生源の密閉化または局所排気装置を設ける。

## 保護具

呼吸用保護具	: 必要に応じて防じんマスク（オイルミスト用）を着用する。
保護眼鏡	: 必要に応じて保護眼鏡を着用する。
保護手袋	: 必要に応じて不浸透性の保護手袋を着用する。
保護衣	: 必要に応じて不浸透性の保護作業服、保護長靴、保護前掛け等を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 液体
色	: 乳白色
臭い	: 特異臭
融点／凝固点	: データなし
沸点または初留点及び沸点範囲	: データなし
可燃性	: データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	: データなし
引火点	: この物自体は引火しない
自然発火点	: データなし
分解温度	: データなし
pH	: 6.5～8.5
動粘性率（動粘度）	: データなし
溶解度	: 水に易溶
n-オクタノール／水分配係数	: データなし
蒸気圧	: データなし
密度及び／または相対密度	: 1.02g/cm <sup>3</sup> (15°C・代表値)
相対ガス密度	: データなし
粒子特性	: 該当しない

10. 安定性及び反応性

反応性	: 通常の条件下で安定である。
化学的安定性	: 常温で暗所に貯蔵・保管された場合、安定である。
危険有害反応可能性	: 通常の使用条件下において、危険な反応は知られていない。
避けるべき条件	: 加熱、高温、直射日光、氷点下
混触危険物質	: データなし
危険有害な分解生成物	: 通常の使用条件および保管条件下において、有害な分解生成物は生成されない

い。

## 1 1. 有害性情報

※原料の SDS より引用

急性毒性	有用な情報なし
皮膚腐食性／刺激性	有用な情報なし
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	有用な情報なし
呼吸器感作性または皮膚感作性	有用な情報なし
生殖細胞変異原性	有用な情報なし
発がん性	有用な情報なし
生殖毒性	有用な情報なし
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	有用な情報なし
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	有用な情報なし
誤えん有害性	有用な情報なし

## 1 2. 環境影響情報

生態毒性	：混合物としての情報なし
残留性・分解性	：混合物としての情報なし
生体蓄積性	：混合物としての情報なし
土壤中の移動性	：混合物としての情報なし
オゾン層の有害性	：混合物としての情報なし

## 1 3. 廃棄上の注意

- ・事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、又は都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
- ・燃焼する場合は、安全な場所で、かつ、燃焼または爆発によって他に危害または損害を及ぼす恐れのない方法で行うと共に、見張りを付ける。
- ・その他関係法令の定めるところに従う。事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、産業廃棄物処理指定業者に委託して処理する。

## 1 4. 輸送上の注意

国際規制

国連番号 : 国連の定義する危険物に該当しない

国内規制 下記、輸送に関する国内法規制に該当するので、各法の規定に従った容器、積載方法に

より輸送する。

陸上	：消防法	非該当
	：労働安全衛生法	非該当
海上	：船舶安全法	非該当
航空	：航空法	非該当

## 15. 適用法令

労働安全衛生法	：表示対象物質、通知対象物質	非該当
	特化則	非該当
	有機則	非該当
	リスクアセスメント対象物	非該当

### 化学物質排出把握管理促進法

：非該当

### 毒物及び劇物取締法

：非該当

### 消防法

：非該当

## 16. その他の情報

### 参考資料

- 許容濃度等の勧告、日本産業衛生学会（2023）
- GHS 対応ガイドライン ラベル及び表示・安全データシート作成指針（日本化学会）
- 事業者向け GHS 分類ガイダンス（経済産業省）
- 化学物質適正管理の届出の手引き（東京都環境局環境改善部化学対策課）
- 「GHS 混合物分類判定システム」分類方法に関する補足事項
- 原料の SDS
- GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS) JIS Z 7253 : 2019（日本規格協会）

### 注意事項

このSDSは最新の情報に基づいて作成されておりますが、すべての情報を網羅しているものではありませんので予めご了承ください。新たな情報を入手した場合、追加または訂正されることがあります。

記載内容は現時点での入手できた資料、情報、データをもとに作成しておりますが、化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証、担保あるいは責任をお受けするものではありません。

記載の注意事項は通常の取り扱いを対象としたものであり、特殊な取り扱いをする場合は状況に応じた安全対策を実施の上、貴社の責任のもとにご対応をお願いいたします。

すべての化学製品には未知の危険性、有害性の可能性がありますので取り扱いには十分ご注意ください。